タイにおけるタイ語母語話者日本語学習者の「聞き返し」ストラテジーの使用について

テンヂャローン・モンルタイ	国際日本学専攻

期間	2007年12月23日～2008年１月14日
場所	タイ・バンコク
施設	チュラロンコーン大学文学部日本語学科、タイ国立図書館、チュラロンコーン大学図書館

１．内容報告

これまでは日本で学習しているタイ語母語話者日本語学習者を対象にし、会話の際に学習者が日本人の発話を理解できなかったり、聞き取れなかったりした場合に、どのような「聞き返し」ストラテジーを使用しているのかについて分析、研究を行ってきた。しかし、博士論文を書くに当たり、今後はこれまでの研究をもとに、学習環境の違いによる「聞き返し」ストラテジーの相違や、母語の影響について明らかにし、「聞き返し」ストラテジーに対してより多方面からのアプローチをとることによって、「聞き返し」の実態を明らかにしていきたいと考えている。そのため、本海外調査研究において、タイにおけるタイ語母語話者日本語学習者を対象にデータの収集をする必要性があった。今回の海外調査研究では、タイ国立大学で日本語を専攻しているタイ語母語話者日本語学習者と日本人の電話会話を録音し、その会話において学習者が日本人の発話が理解できなかった際に、どのような「聞き返し」ストラテジーを行っているのかの分析を行った。また参考データとして、「聞き返し」の使用に母語が影響するかどうかを検証するために、タイ語母語話者同士の電話会話の録音や、タイの国立図書館、チュラロンコーン大学図書館などにおいて資料の調査やデータの収集を行った。以下では本調査研究で行った調査の概要及びその成果について考察を述べ、報告したい。

２．はじめに

日本語学習者が接触場面において円滑にコミュニケーションを行うためには、文法能力だけでなく、わからないことを「聞き返し」たり、お互いの理解を確かめたりすることが大切である。特に、接触場面において学習者が日本人の発話を理解できない、または聞き取れないという問題が生じた際に、それらの問題を解決するためには、「聞き返し」などのコミュニケーション・ストラテジーの使用が必要であると考えられる。しかし、「聞き返し」をするには、進んでいく会話の中で聞き返す適切なタイミングや問題を相手に伝えるための表現、さらには相手に対する配慮などが必要になってくるため、「聞き返し」を効果的に使用するのは非常に難しいと指摘されている（猪狩1998)。今までの先行研究では、学習者の「聞き返し」についての研究（尾崎1992、1993、2001、福間1994、田中2000、テンヂャローン2007など)が見られるが、学習環境の違いによる「聞き返し」ストラテジーの相違についての研究や、母語の影響の研究が見られない。そこで、今回の調査では、タイにおけるタイ語母語話者日本語学習者の「聞き返し」のデータ収集と分析を行い、ＪＦＬ学習者の「聞き返し」の実態を明らかにする。そして、日本におけるタイ語母語話者日本語学習者とタイにおけるタイ語母語話者日本語学習者と比較をすることによって学習環境の違いによる「聞き返し」ストラテジーの相違についても分析を行う。

３．先行研究

日本語学習者の「聞き返し」ストラテジーの研究は尾崎による一連の研究（Ozaki1989、尾崎1992、1993）をはじめ、多くの研究が見られる（猪狩1998、伊藤1998、大野2001)。尾崎（1992:252）によると、「聞き返し」ストラテジーは相手の話が聞き取れない、分からないという問題に直面し、それを解消するために相手に働きかける方略であるとしている。

尾崎（1992）は学習者が使用している「聞き返し」の発話意図と表現形式を分類しており、発話意図が「説明要求」か「反復要求」かがあいまいな「聞き返し」は失敗することが多いという。また、猪狩（1998）は、初級学習者の「聞き返し」の表現は限られており、また、学習者が使用している表現が明確ではないため、自分の目的にあった表現について学ぶ必要があると指

摘している。大野（1999）は「聞き取り確認」の場合は初級学習者でも「聞き返し」の成功率が高いが、「反復要求」と「説明要求」の場合は成功率があまり高くないという。今までの先行研究では、このように学習者に注目をした研究が多く、学習環境の違いによる「聞き返し」ストラテジーの相違や母語の影響についての研究はまだ見られない。

そこで、本調査では先行研究を踏まえて、学習環境の違いによる「聞き返し」ストラテジーの相違や、母語の影響の研究について明らかにしていくために必要なデータの収集を行った。

4．調査の概要

4．1　調査の期間及び調査の内容

2007年12月23日～2008年１月14日の期間に、タイのバンコクにおいて今回の調査を行った。調査内容は以下の通りである。

期　　間	内　　容
2007年12月24日～１月３日	調査の対象者の電話会話のデータの収集をして、データの文字化をした。
2008年１月４日～９日	調査の対象者にフォローアップ・インタビューを行った。
2008年１月10日～13日	タイ国立図書館、チュラロンコーン大学図書館にて参考文献を収集し、調査の結果を分析した。

4．2　調査の対象者

タイ国立大学のチュラロンコーン大学文学部で日本語を専攻している学習者と在タイ日本人、それぞれ15名ずつ計15組を対象者とした。学習者は全員女性で、日本人は女性が10名、男性が５名、学習者と日本人はこれまでお互いに面識したことがない。学習者は日本での長期滞在経験のない、日本語能力検定試験2級を持っている者である。

日本人はタイでの滞在期間が半年以内の在タイ日本人で、まだタイ国内をあまり観光したことのない者である。また、外国人と接触する機会も少なく、日本語教育の経験や知識もない。

4．3　調査の手続き

電話会話の課題として、日本人がこれからタイ国内で観光を行うため、タイの観光地についての情報を電話でタイ人の学習者に質問をするという場面を設定し、学習者と日本人の電話会話を約15分間録音した。また、学習者からの「聞き返し」を引き出すために、学習者が知らないと思われる単語のリストを事前に作成し、会話の際の参考資料として日本人に手渡した。そして、電話の際に、参考資料の中から自分が興味を持っていることに関係する単語をキーワードとしていくつか選んでもらい、質問してもらった。

会話終了後に、学習者にはタイ語で、日本人には日本語でフォローアップ・インタビューを行った。その際、文字化資料を見せながら音声データを再生し、学習者には「聞き返し」の発話意図を確認し、日本人には学習者の「聞き返し」の発話意図をどのように解釈したのかを確認した。

分析方法

文字化した会話資料から学習者の説明要求の「聞き返し」と思われるところを抽出して、その文字化資料と音声データを用いてフォローアップ・インタビューを行った。その際に、学習者には「聞き返し」の発話意図及び学習者から得られた応答への理解を確認し、日本人には学習者の「聞き返し」に対する応答について確認してもらった。そして、学習者の「聞き返し」に対する日本人の応答の種類を分析した。文字化資料を基に、学習者の説明要求の「聞き返し」に対して、日本人はどのような応答をする場合に、学習者の聴解上の問題が解決されたのかについて分析した。

4．4　「聞き返し」ストラテジーの定義及び分類

本調査では、尾崎（1992:252）に従い、「聞き返し」ストラテジーについて、「相手の話が聞き取れない、分からないという問題に直面し、それを解消するために相手に働きかける方略」と定義する。

4．4．1　「聞き返し」の発話意図の分類

尾崎（1992）では「聞き返し」の発話意図を６つに分類したが、本研究では「反復・説明要求」、「聞き取り確認・説明要求」の使用回数が極めて少なかったため、以下の４つの「聞き返し」の発話意図を分析の対象とした。

①「反復要求」：発話が聞き取れなかった時に聞き取れなかった発話を反復してもらうように要求する。
②「聞き取り確認要求」：発話の聞き取りに自信が持てなかった時に確認を要求する。
③「理解確認要求」：発話に対する理解に自信が持てなかった時に確認を要求する。
④「説明要求」：発話を理解できなかった時にその発話に対する説明を要求する。

4．4．2 「聞き返し」の表現形式の分類

尾崎（1993、2001）、猪狩（1996）を参考にし、「聞き返し」の表現形式を以下のように分類した。

①エコー型：相手の発話をそのまま反復する「聞き返し」で、そのまま反復をする普通形、反復した部分＋ですかの丁寧形、相手の発話を部分的に反復する不完全形がある。

例：「屋台」という言葉が分からなかった場合
屋台？、屋台ですか？、屋･･･

②エコー＋α型：相手の発話を反復したものに他の表現を付け加えた「聞き返し」である。

例：「屋台」という言葉が分からなかった場合
屋台って何ですか？
屋台はどういう意味ですか？

③非エコー型: 反復を用いない表現である。

例：え？、もう一度お願いします

5．結果及び考察

本調査では、タイにおける日本語学習者を対象に、学習者の「聞き返し」の使用について分析を行った結果、日本における学習者の「聞き返し」の使用と異なる結果が見られた。

まず、「聞き返し」の発話意図について見てみたい。以下の表１では日本とタイにおける学習者の「聞き返し」の発話意図を使用頻度が多い順番に提示している。

表１　学習者の「聞き返し」の発話意図の使用順位

順位	日本における学習者	タイにおける学習者
1	説明要求	反復要求
2	聞き取り確認要求	聞き取り確認要求
3	反復要求	理解確認要求
4	理解確認要求	説明要求

テンヂャローン（2007）では、日本におけるタイ語母語話者日本語学習者の「聞き返し」の発話意図の使用において、「説明要求」の「聞き返し」が最も多く見られ、学習者は、聞き取りの問題による「聞き返し」よりも意味の理解の問題による「聞き返し」の方が多く、聴解上の問題において、意味が分からないことからくる問題が多いことを指摘している。以下では日本における学習者の「説明要求」の例１を示す。

例１）日本における学習者の「説明要求」
15　Ｊ１：タイの気候はどんな感じですか。
16　Ｔ１：気候。
17　Ｊ１：はい。タイは暑いですか。

Ｔ１は「気候」という言葉の意味が理解できず「説明要求」の「聞き返し」を行った。それに対して、Ｊ１が「タイは暑いですか」と質問を言い換え、気候という言葉の意味を行った。

例１のように日本における学習者の場合は言葉の意味がわからないため、「聞き返し」を行う場合が多く見られた。

しかし、今回のバンコクでの調査における「聞き返し」の発話意図について、使用頻度の多い順番に見ていくと、「反復要求」、「聞き取り確認要求」、「理解確認要求」、「説明要求」という結果になった。このことより、日本における学習者が、意味が分からないことからくる聴解上の問題が多いのに対して、タイにおける学習者の場合は、聞き取りがうまくできないことからくる聴解上の問題が多いことが分かる。以下ではタイにおける学習者の「反復要求」の例を示す。

例２）タイにおける学習者の「反復要求」
31　Ｊ３：タイの灯篭流しはいつですか。
32　Ｔ３：すみません、何ですか。
33　Ｊ３：灯篭流しはいつですか。

Ｔ３は31のＪ３の発話を聞き取れなかったため、「反復要求」の「聞き返し」を行った。それに対して、J3は質問を反復した。

例24のようにタイにおける学習者は発話が聞き取れなかったため、「聞き返し」を行う場合が多く見られた。

日本とタイにおける学習者の間で以上のような相違が見られた原因として、日本における学習者の場合は日本語を使用する機会が多く、日本語をよく耳にしているために、聞き取りによる聴解上の問題が少ないが、日本の大学への入学を目標に日本語を勉強しているため、「タイの観光について」という話題で使用される言葉が学習者にとって聞き慣れない言葉が多かったと考えられる。一方、タイにおける学習者は、卒業後にタイで日本語を使って仕事をする人が多く、ガイドの日本語なども含め、大学で様々な単語を勉強しているため、多くの言葉の意味を理解しているが、日本語を実際に使用して聞き取る機会が少ないと考えられる。

次に、学習者が使用した「聞き返し」の表現形式について見てみたい。表２では、日本とタイにおける学

習者の「聞き返し」の表現形式を使用頻度が多い順番に提示している。

表２　学習者の「聞き返し」の表現形式の使用順位

順位	日本における学習者	タイにおける学習者
1	エコー型	非エコー
2	非エコー型	エコー型
3	エコー＋α	エコー＋α

学習者の「聞き返し」の表現形式について見ると、日本における学習者の場合は、エコー型、非エコー型、エコー＋α型の順番で「聞き返し」が行われていたのに対して、タイにおける学習者の場合は、非エコー型、エコー型、エコー＋αという順番に「聞き返し」の表現形式が使用されていることが分かった。以下の例５と例６では

それぞれ日本にける学習者とタイにおける学習者の「聞き返し」の表現形式についての例を示す。

例３）日本における学習者の表現形式
49　Ｊ８：タイと日本で時差ってあるんですか
50　Ｔ８：時？　←エコー型
51　Ｊ８：時差。

Ｔ８は49の「時差」という言葉の意味が理解できず、聞き取れた「時差」の「時」という部分を繰り返してエコー型の「聞き返し」を行った。

例４）タイにおける学習者の表現形式
72　Ｊ９：タイは旧正月に何かするんですか。
73　Ｔ９：もう一度お願いします。←非エコー型
74　Ｊ９：旧正月には何をしますか。

Ｔ９は72のＪ９の発話が聞き取れなかったためＴもう一度お願いします」という言葉を使って非エコー型の「聞き返し」を行った。

このように、日本における学習者の場合は日本人の発話を聞き取れているため、聞き取れた部分を反復して聞き返しを行うエコー型の使用が多く、反対にタイにおける学習者は発話がうまく聞き取れないため、エコーをするのではなく、「もう一回言って下さい。」のような非エコー型の「聞き返し」が多くなったのではないかと考察できる。

また、タイにおける学習者は「聞き返し」の特徴として、「聞き返し」を行う際に、まずタイ語が口にでる学生が多く、聴解上の問題が発生した際に、とっさに日本語で「聞き返し」を行えない場合も見られた。以下の例７でタイ語を使って聞き返しを行った際の例を示す。

例６）タイ語を使って聞き返しを行った例
23　Ｊ４：え、６時って言うのは夕方か夜の６時ですか。
24　Ｔ４：え：(笑う) Arai na kha
25　Ｊ４：ん？
26　Ｊ４：(笑う)
27　Ｔ４：あ ？
28　Ｊ４：さっき聞こえなかったんです。

例６のように「反復要求」の表現として、タイ語で「何ですか」という意味の「Arai na kha」を使用して、「聞き返し」を行う例が見られた。

今回の調査では、今後タイ語日本語学習者の「聞き返し」における母語の影響を調べるため、タイ語会話における「聞き返し」についてもデータの収集も行ったが、その結果、タイ人は会話で聴解上の問題が発生した際に「何ですか？」という意味の「Arai na kha」という言葉よく使用しているという特徴がみられた。日本語の会話においても、「Arai na kha」というタイ語の「聞き返し」が見られたのも、この影響があるのではないかと考えられる。

６．今後の課題及び予定

本調査では、日本での研究結果とは違う結果が見られ、日本で日本語を勉強している学習者と、タイで日本語を勉強している学習の間では使用している「聞き返し」が異なる傾向が見られた。

また、タイ人同士の「聞き返し」について分析をした結果、「何ですか？」という意味の「Arai na kha」という言葉よく使用しているという特徴がみられたが、これは日本とタイの文化面での違いなどが影響を与えていると考えられる。

今後は今回収集したタイ語母語話者日本語学習者の「聞き返し」とタイ語母語話者同士の「聞き返し」についてのデータをより詳しく分析し、学習環境の違いによる「聞き返し」の使用の相違について、より深く考察を行うとともに、「聞き返し」ストラテジーに母語の影響があるのかについての検討をしたい。そして、学習者がより効果的な「聞き返し」を使用できるようになるためにどのようにすればいいのかについて、日本語教育へ示唆を与えたい。

また、今後は、上記のような内容についてまとめ直し、2008年６月小出記念日本語教育研究会で「学習環境の相違による学習者の「聞き返し」の使用について」口頭発表をする予定するとともに、日本語教育の学術誌への投稿も検討している。

注

１．例にある最初の番号は発話番号、ＪはＪＮＳ、Ｔはタイ語母語話者学習者を示す。また、下線の部分は注目した学習者の「聞き返し」を示す。

参考文献

猪狩美保（1998）「オーラル・テストに見られるコミュニケーション・ストラテジーに関する一考察」『横浜国立大学留学生センター紀要』5, 5-14.

猪狩美保 (1999)「初級学習者の「聞き返し」のストラテジー－初級日本語教科書との関連から－」『横浜国立大学留学生センター紀要』6, 15 -25.

池田伸子（2003）「ビジネス会話における「聞き返し」ストラテジーの使用傾向－ビジネス日本語教育用教材開発の基礎として－」『広島大学留学生センター紀要』13, 37-45.

伊藤かんな（1998）「初級日本語授業における学習者の「聞き返し」の特徴」『岐阜大学学センター紀要』創刊号, 52-61.

岡崎敏雄（1987）「談話の指導－初～上級を中心に－」『日本語教育』62, 165-168.

尾崎明人（1992）「「聞き返し」のストラテジーと日本語教育」『日本語研究と日本語教育』名古屋大学出版会 251-263.

尾崎明人（1993）「接触場面の訂正ストラテジー－『「聞き返し」』の発話交換をめぐって－」『日本語教育』81, 19-30.

尾崎明人（2001）「接触場面のおける在日ブラジル人の「聞き返し」とその回避方略」『社会言語学』4, 81-91.

大野陽子（1999）「日本語初級学習者の「聞き返し」のストラテジー使用の実態―英語母語話者の場合―」『日本語教育学会春季大会』173-178.

大野陽子 (2001)「初級学習者の「聞き返し」のストラテジーと日本語母語話者の反応」『三重大学留学生センター紀要』3, 83-92.

西條美紀（1998）「接触場面におけるメタ言語的方略の有用性: 発話理解の問題を解決する学習者方略についての実証的研究」『世界の日本語教育』8, 99-119.

田中真寿美（2000）「日本語学習者による「聞き返し」『千葉大学社会文化科学研究科　研究プロジェクト報告　接触場面の言語管理研究』研究代表者　村岡英裕　vol1, 13-23.

椿由紀子（2002）「電話会話における「聞き返し」の回避方略」『日本語教育学会春季大会』173-178.

寺村裕子（1992）「初級の日本語学習者のコミュニケーション上の問題」『ことばの科学』名古屋大学言語文化部言語文化研究委員会, 5, 57-80.

テンヂャローン・モンルタイ（2007）「電話における学習者の「聞き返し」ストラテジーの使用について－発話意図と表現形式に注目して－」『言語文化と日本語教育』34 , pp.11-19.

Nawawan Phanthumetaa（1982）Thai grammar.Moopootoo

Nitayaporn Tanasitisurachat（2002）“Topic shift devices in thai conversation”,chulalongkorn University thesis

Paribakht, T.(1985)“Strategic competence and language proficiency”,Applied Linguistics, Vol.6, No.2, pp132-146

Watcharaporn Boopanimit（2000）“Discourse markers in casual conversation of Bangkok Thai speakers”, chulalongkorn University thesis

てんぢゃろーん・もんるたい／お茶の水女子大学大学院　国際日本学専攻
tengchan@hotmail.com

【指導教員のコメント】

テンヂャローン・モンルタイさんの今回の海外調査は、「学習環境の違いがどのように聞き返しストラテジーの使用に影響を与えるか」という研究のためのデータ収集が目的である。本報告によれば、学習環境の違いが聞き返しストラテジーの使用に大きな影響を与えることが示唆され、今回の調査が有益であったことが示された。

今後、本報告では示されていない、結果にいたる過程の数値的根拠を示すなど、データの分析をさらに精緻化させ学会誌へ投稿するなどの活動が望まれる。　（人間文化創成科学研究科　教授　佐々木　泰子）